

IATEFL 参加報告

42nd Annual International IATEFL Conference and Exhibition

IATEFL 副担当：児島千珠代
(早稲田大学・非)

今年の IATEFL はイギリスの University of Exeter で4月7日から11日まで約1600人の参加者を集めて開催された。Associates の顔合わせは恒例により前日6日夜の Associates' Dinner で始まる。Exeter の Abode Hotel に Associates や IATEFL 本部役員が集まって、会長の Marion Williams の挨拶と共に和やかな雰囲気の中で進められた。

7日は Associates' Day と Pre-conference Events が開かれた。Associates' Day の会議のため Pre-conference Events には出席できなかったが、Pre-conference Events は以下の10のテーマで行われた。

Business English	ELT Management	Learning Technologies
English for Specific Purposes	Learner Autonomy	ES(O)L
Literature, Media & Cultural Studies	Teacher Development	Young Learners
Teacher Trainers & Educators/Testing, Evaluation & Assessment		

Associates' Day の会議は7日朝9時から夕方5時過ぎまで各国の Teachers' Association の代表が集まって開かれた。会長の Marion Williams の挨拶で始まり、Associates' Coordinator の Sara Hannam からは、Associates の Website や、2ヶ月ごとに発行されている IATEFL の Newsletter “Voices” の Associates のページについて、また会員がアクセスできる Articles Bank などが説明された。Tesol Arabia やブルガリアの TA(Teachers' Association) による発表の後、それぞれの TA でどのような課題があるかが話し合われた。たとえば、Leadership, Membership, Communication, Website, Finance, Sponsorship, Newsletter についてなどである。財政面に関して Sponsorship では、スポンサー会社の経営方針が変わり TA(Teachers' Association)の方針と合わなくなったという理由で財政支援を打ち切られたらどうするか、という具体的なものだった。IATEFL の Associates' Day は、世界中の約70の TA と IATEFL との連携、また各 TA 間での交流を活発にする役割を果たしている。

Plenary session は下記のように行われた。以下に基調講演者名とタイトルを挙げる。

- 4月8日 Alastair Pennycook: 'Changing global ELT practices'
- 4月9日 Zoltán Dörnyei: 'Motivation and the vision of knowing a second language'
- 4月10日 Rosa Jinyoung Shim: 'Empowering EFL students through teaching English as a world language'
- 4月11日 Radmila Popovic: 'Forging peace through ELT: utopia or reality?'

Alastair Pennycook は、国際化、文化、独自性などを背景に ELT (English language teaching) について述べ、context-free teaching methods を模索するのではなくそれぞれの国の文化や言語を考慮した英語教育の必要性や、また国際語としての英語にはネイティブスピーカーではなく堪能な言語使用者が存在するのみだということを論じた。これは、Rosa Jinyoung Shim の国際語としての英語を教育すべきだという主張にもつながる。Zoltán Dörnyei は、なぜ学習が成功したかを説明する時に教師にも学習者にも一番良く使われる言葉が motivation だと前置きした上で、motivation の新しい理論を披露した。それは、外国語 (L2) 学習における motivation には 'Ideal L2 Self' という概念が必要だということである。外国語をマスターした理想の自分と現在の自分の差を縮めていくという考えである。この理論をもとに教師にとっても有用な具体的な方法を提示した。Radmila Popovic は、言語教育と平和教育を融合させることを主張したが、これも英語が国際語になってきたことに関連する。

一般発表では、イギリスに留学した学生が彼らの英語学習が成功したか失敗したかをどのように認識しているかという研究、教師教育が教師の知識や考え方に与える影響、アラブ諸国でアラビア語でなく英語で教育されることによる language identity の問題、言語学習に関する教師と学生の beliefs、小学生英語学習者のネイティブスピーカーの先生に対する認識、などについて聞くことができた。また Penny Ur による English as a lingua franca としての英語教育について、M.McCarthy & F.O'Dell による Academic vocabulary についての研究発表も聴衆を集めた。Oxford 出版の *Oxford Bookworms Clubs for Reading Circles* を日本の大学で使って学生が積極的に学習に参加したという報告、同じく Oxford 出版の *Bookworms World Stories* を使った Extensive reading の効果についても Oxford 出版の関係者から発表されて反響を呼んでいた。

最終日の11日午前中は、一般発表と共に、9時から11時半までのシンポジウムが九つのテーマで開催された。私はこの中の Good Language Learners: Motivation and Beyond という6名によるシンポジウムの中で "A comparison between successful and unsuccessful language learners' beliefs" というタイ

トルで研究発表を行った。他の5名のシンポジストは、2008年にケンブリッジ出版から "Lessons from Good Language Learners" を刊行した Carol Griffiths, その共著者の Ema Ushioda, チェコ共和国の Blanka Frydrychova Klimova, 兵庫教育大の中田賀之氏、日本の大学で教鞭をとっている David McLoughlin である。

以下に、その他のシンポジウムのテーマを挙げる。

Writing Across Cultures,	Autonomy
CILL in Primary and Pre-primary Education,	The Environment and ELT
Interactive Whiteboards,	Learner and Teacher Beliefs
Critical Approaches to Coursebooks,	Initial Teacher Training

展示では、14件のポスタープレゼンテーションのほか、数多くの出版社やイギリスの大学もブースを出していて、展示スペースは二つの会場に分かれて大規模に行われていた。

来年2009年の IATEFL 大会は Wales の Cardiff で、3月31日の Pre-Conference Events で始まり、4月1日から4日に Conference and Exhibition が開かれる。